

証券コード 6379

レイズネクスト株式会社 決算説明会資料

2025年3月期 第2四半期

レイズネクスト株式会社

目 次

1. 2025年3月期第2四半期決算	・ ・ ・	3	4. 長期ビジョン及び中期経営計画	・ ・ ・	17
1) 事業環境	・ ・ ・	4	1) 長期ビジョンの骨子	・ ・ ・	18
2) 業績概要	・ ・ ・	5	2) カーボンニュートラル分野への挑戦	・ ・ ・	19
3) 受注高	・ ・ ・	6	3) 長期ビジョンと中期経営計画との関係	・ ・ ・	20
4) 完成工事高	・ ・ ・	7	4) 経営基盤の強化と各事業戦略	・ ・ ・	21
5) 完成工事総利益・営業利益	・ ・ ・	8	5) 工事種類別完成工事高推移	・ ・ ・	22
6) 当期純利益	・ ・ ・	9	6) タンク事業の拡大	・ ・ ・	23
7) 受注残高	・ ・ ・	10	5. 資本コストや株価を意識した経営の	・ ・ ・	24
8) 貸借対照表	・ ・ ・	11	実現に向けた対応の進捗について		
2. 2025年3月期業績見通し	・ ・ ・	12	1) 資本コストや株価を意識した経営の	・ ・ ・	25
1) 業績見通し	・ ・ ・	13	実現に向けた対応の進捗について		
2) 受注高・完成工事高	・ ・ ・	14			
3. 配当	・ ・ ・	15			
1) 2025年3月期配当予想	・ ・ ・	16			

1. 2025年3月期第2四半期決算

1) 事業環境

●石油業界

石油製品の構造的な需要減少により製油所の統廃合（閉鎖）が進行

⇒製油所跡地への太陽光発電所建設、SAFや合成燃料等の低炭素燃料製造装置の検討が進む…新たなプラント建設が具体化

●電力業界

脱炭素に向け新たにアンモニア混焼、水素発電設備の導入

⇒低炭素発電設備の導入などが進み、発電設備へ供給するアンモニア/水素などのインフラ設備の建設需要が増加

●一般化学、非鉄金属業界

脱炭素社会実現に向けた半導体製造に関する高機能材や電子材料の需要が旺盛

⇒高機能材製造プラントや電子材料工場建設需要が増加

●建設業界

工事従事者の不足の顕在化や時間外労働上限規制の適用

- 
- ・メンテナンスでの安定した収益確保と成長分野への積極的な取り組みを継続
 - ・時間外労働上限規制の対応は、前期より前倒しで対策を行い、今期も継続実施中

2) 業績概要

- 受注高、完成工事高および各利益は、期初予想を上回る
- 各利益は前年同期を下回ったが、会社統合5周年を機に人的資本投資の一環として行った持株会RS（※）の費用を除けば、前年同期を上回る

※ … 従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブ制度

	第2四半期			
	期初予想	2024.09	増減	増減率
受 注 高	705	736	+31	+4.4%
完 成 工 事 高	710	751	+41	+5.9%
完成工事総利益	73.0	74.7	+1.7	+2.4%
(率)	10.3%	9.9%	-0.4%	—
営 業 利 益	30.0	35.1	+5.1	+17.2%
(率)	4.2%	4.7%	+0.5%	—
経 常 利 益	30.5	36.3	+5.8	+19.3%
(率)	4.3%	4.8%	+0.5%	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	21.0	26.3	+5.3	+25.5%
(率)	3.0%	3.5%	+0.5%	—

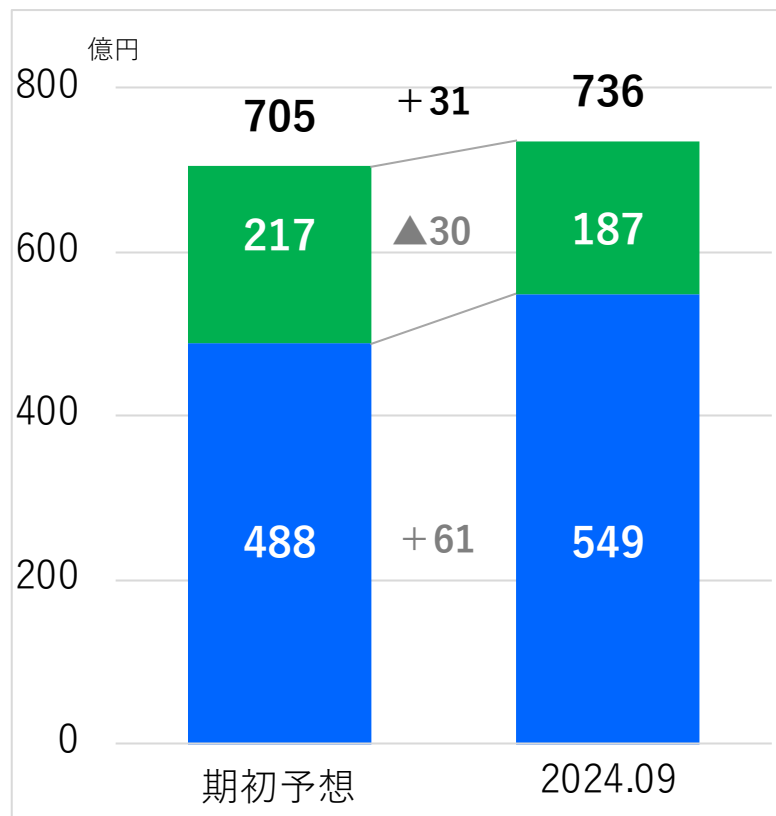
(参考) (単位：億円)

前期（2023.09）との差異		
	前期比	増減率
670	+65	+9.8%
702	+49	+7.0%
78.5	-3.0	-4.9%
11.2%	-1.3%	—
41.9	-6.0	-16.1%
6.0%	-1.3%	—
43.6	-7.0	-16.7%
6.2%	-1.4%	—
28.6	-2.0	-8.2%
4.1%	-0.6%	—

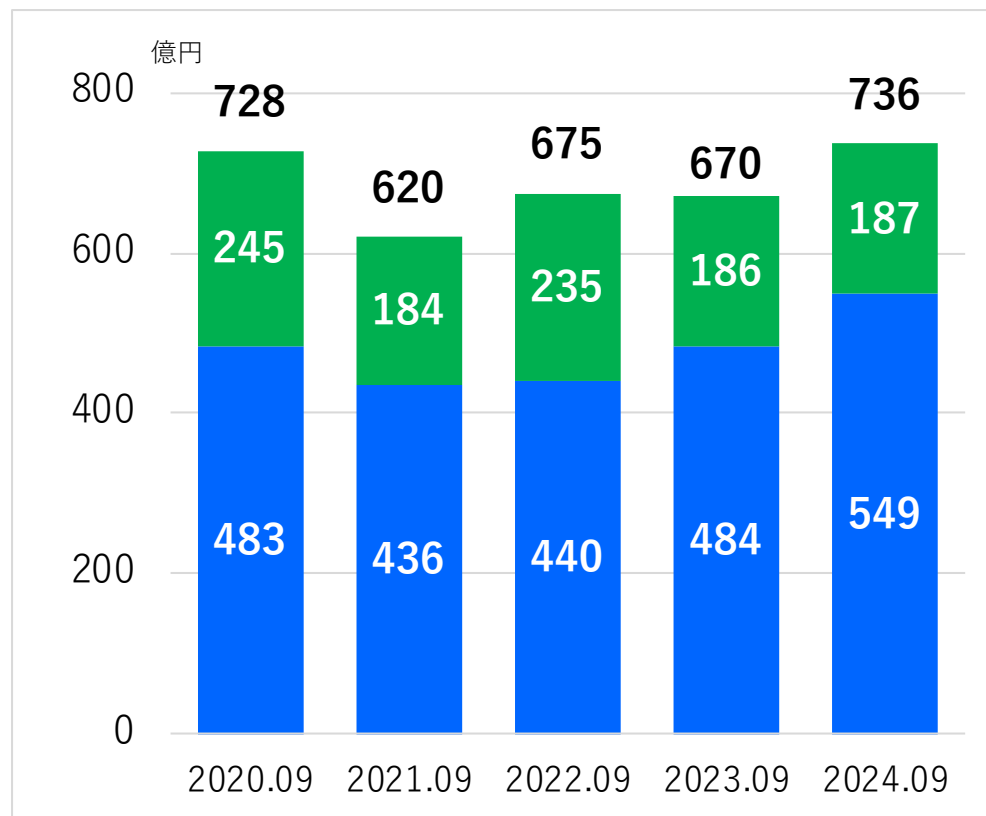
3) 受注高

- メンテナンスは、定期修理工事の工事量の増加や下期からの前倒し計上により期初予想を上回る
- エンジニアリングは、E P C案件の受注時期が期ずれしたことにより期初予想を下回る
- 全体としては、前年同期以上の受注高を確保

期初予想対比



5カ年推移

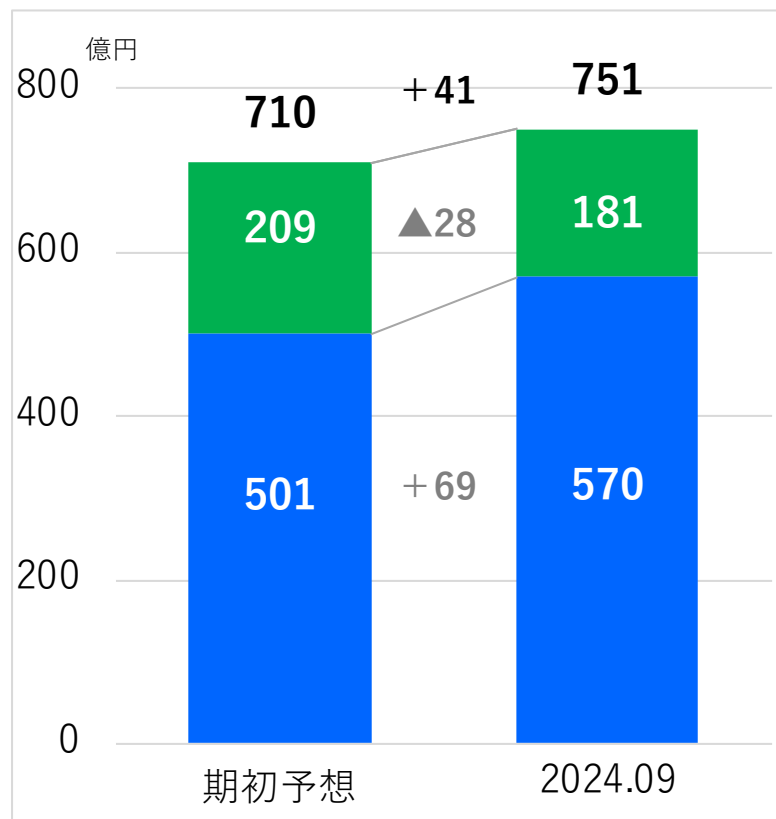


■ メンテナンス ■ エンジニアリング

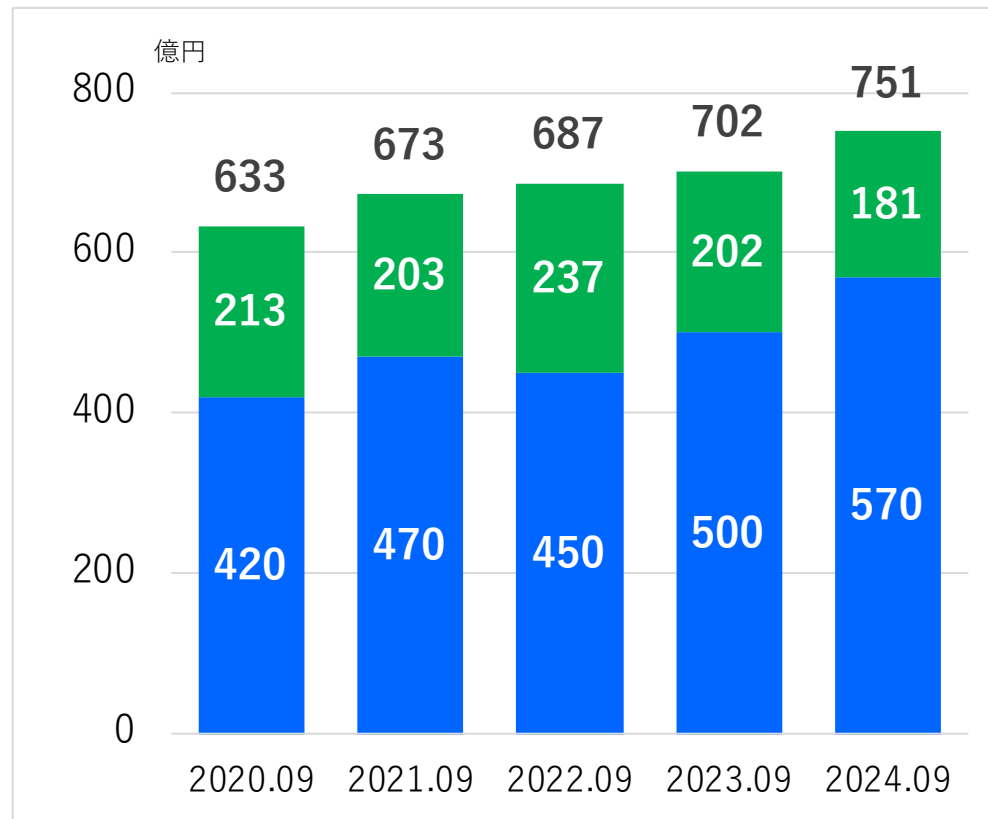
4) 完成工事高

- メンテナンスは、定期修理工事の工事量の増加により、期初予想を上回る
- エンジニアリングは、一部工事で工期見直しが行われたことなどにより期初予想を下回る
- 全体としては、前年同期以上の完成工事高を確保

期初予想対比



5カ年推移

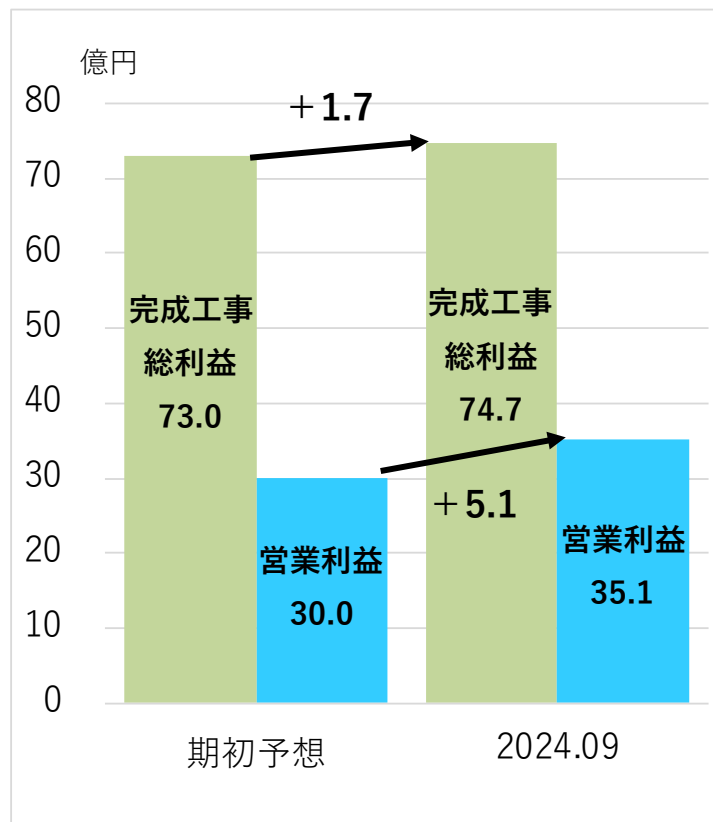


■ メンテナンス ■ エンジニアリング

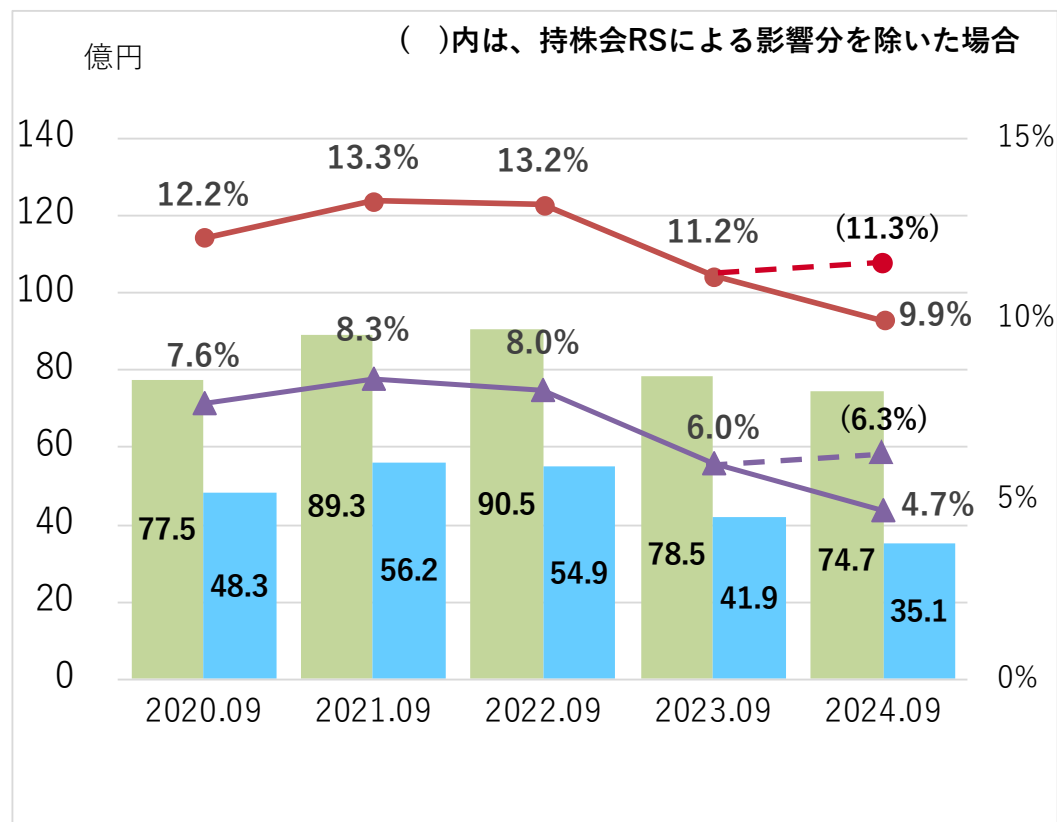
5) 完成工事総利益・営業利益

- 総利益は、ほぼ期初予想と同水準、営業利益は、販管費の支出が想定よりも減少したため、期初予想より増加
- 持株会RSの影響を除くと、前年同期と同水準の利益率

期初予想対比



5カ年推移

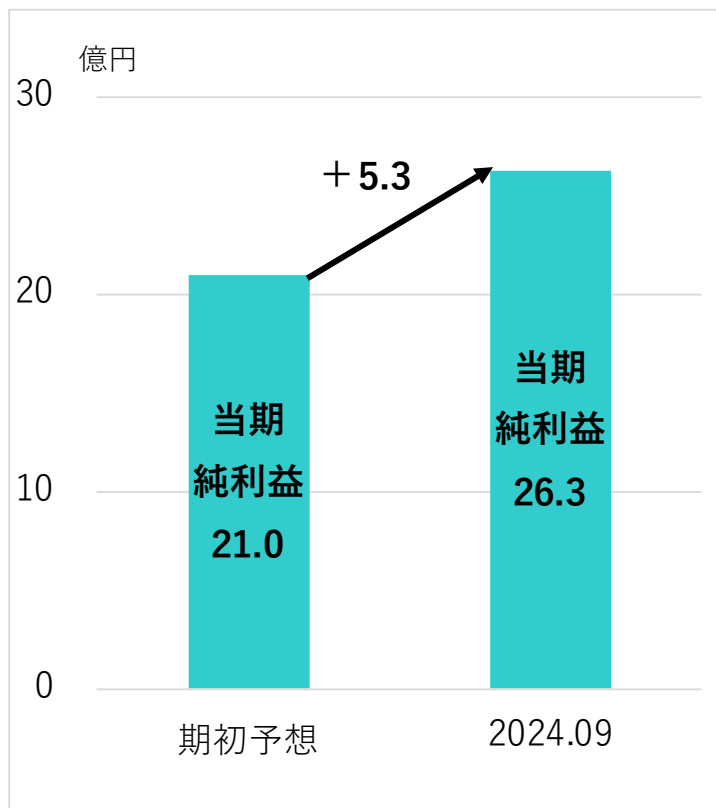


■ 完成工事総利益 ■ 営業利益 ● 完成工事総利益率 ▲ 営業利益率

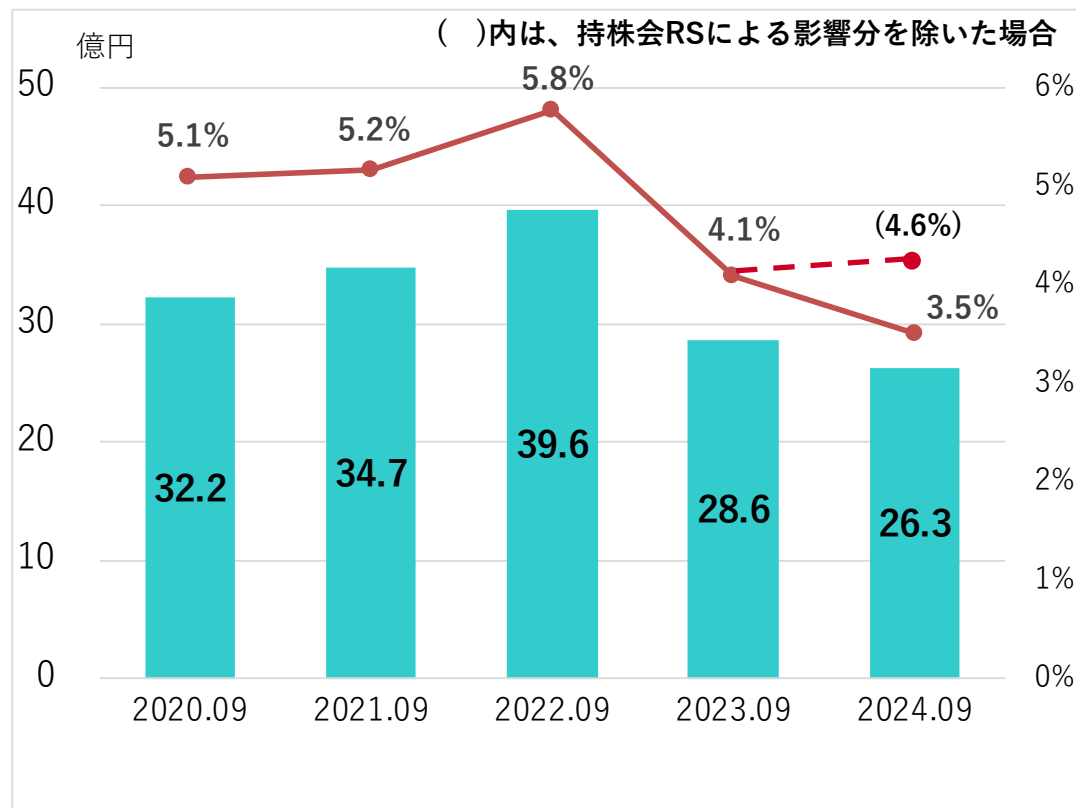
6) 当期純利益

- 営業利益の増加、政策保有株式の売却益により増加
- 持株会RSの影響を除くと、前年同期より高い利益率

期初予想対比



5カ年推移

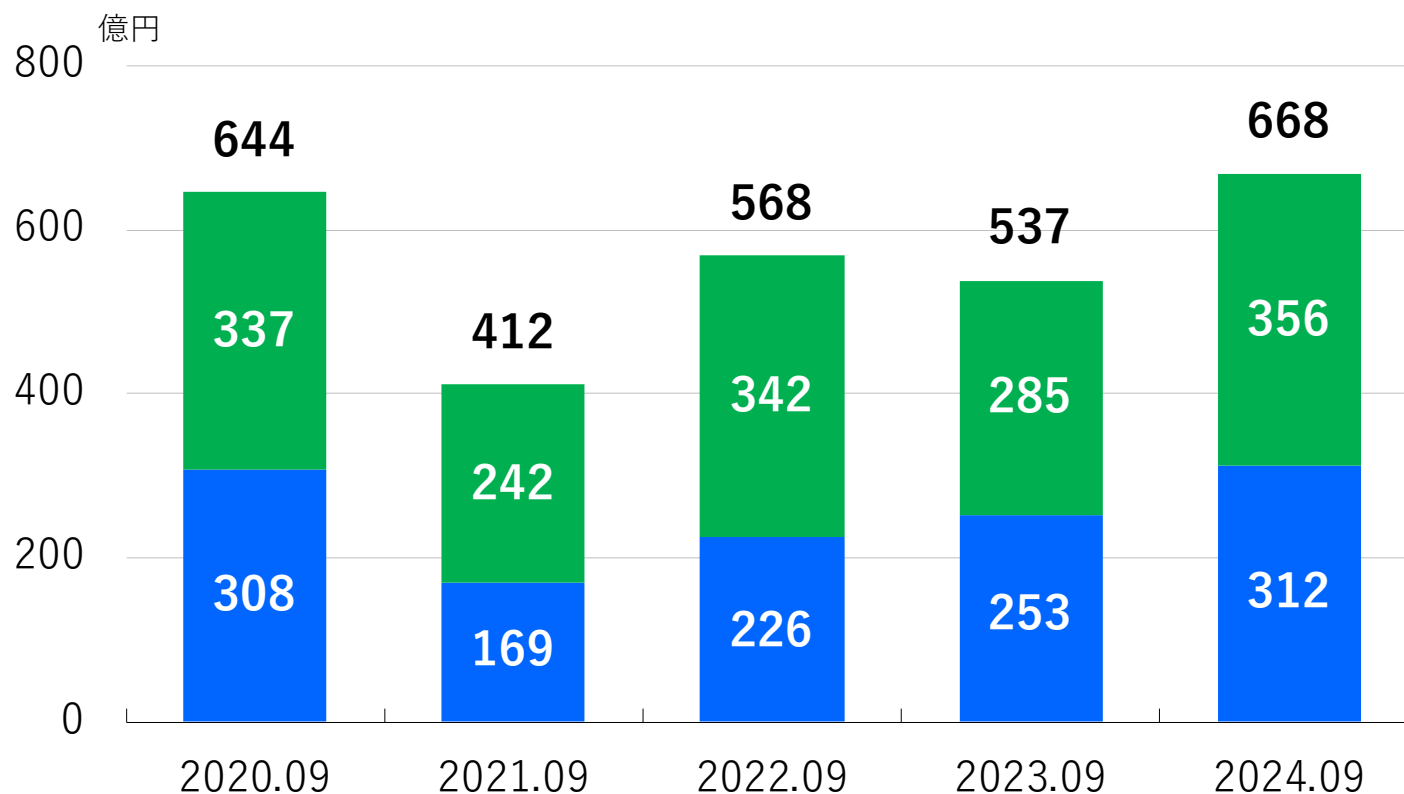


■ 当期純利益 ● 当期純利益率

7) 受注残高

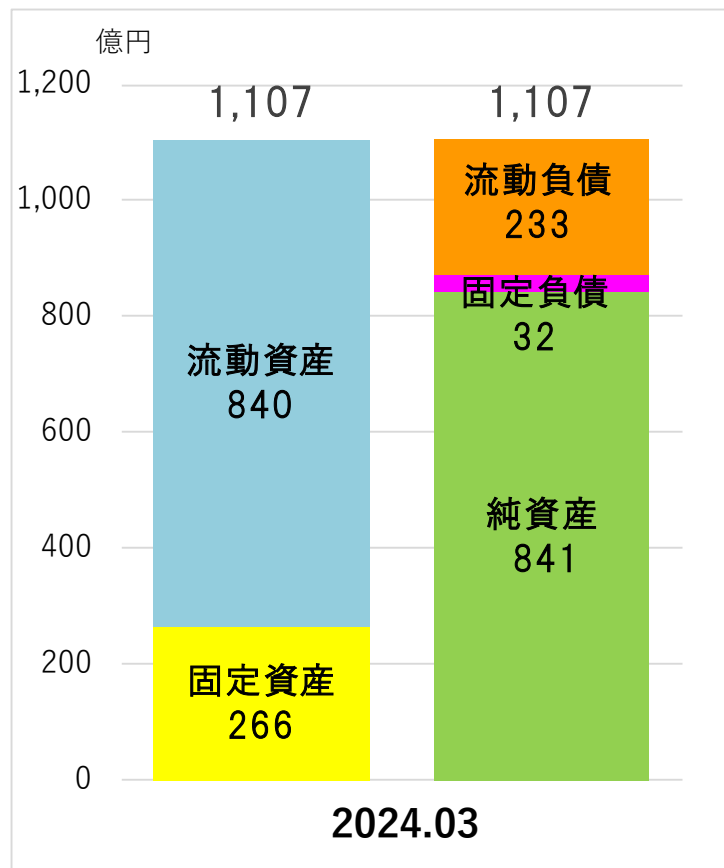
- メンテナンスは、定期修理工事の工事量の増加により前年同期比で増加
- エンジニアリングは、大型工事の受注計上により前年同期比で増加

■ メンテナンス ■ エンジニアリング

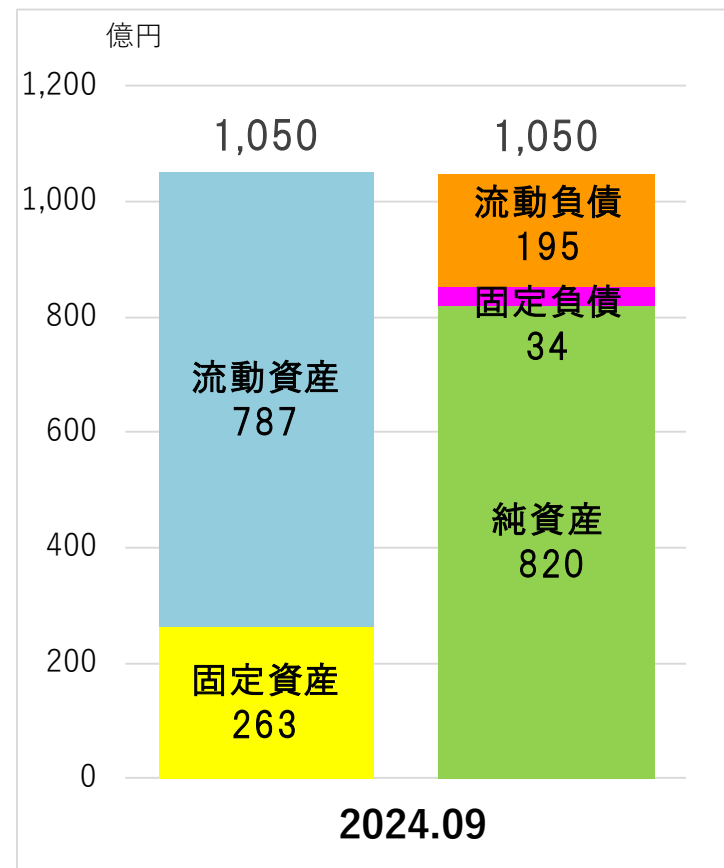


8) 貸借対照表

- 資産の部 . . . 流動資産で配当支払いなどにより現預金等が減少
- 負債の部 . . . 流動負債で工事未払金等が減少
- 純資産の部 . . . 利益計上による増加があったが、配当支払いなどにより利益剰余金が減少
- 自己資本比率は77.3%



自己資本比率：75.2%



自己資本比率：77.3%

2. 2025年3月期業績見通し

1) 業績見通し

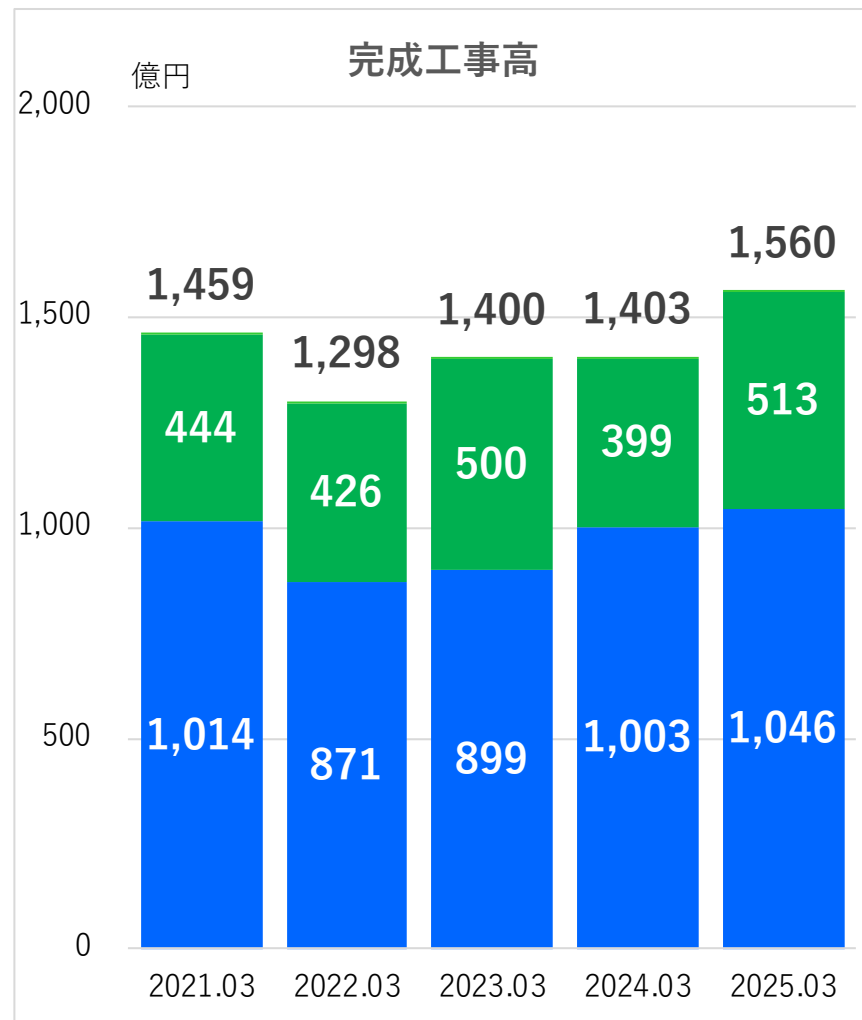
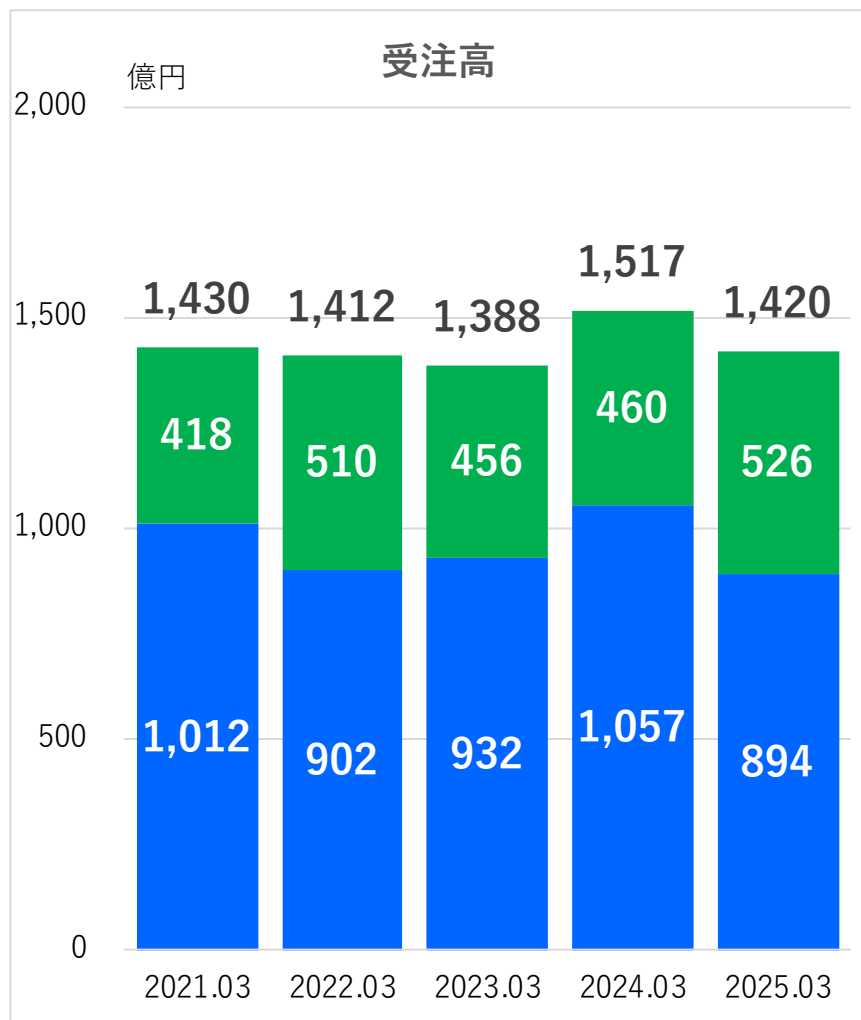
➤ 受注高、完成工事高および各利益は、5月15日公表値から変更なし

(単位：億円)

	第2四半期 実績	通期予想
受 注 高	736	1,420
完 成 工 事 高	751	1,560
完成工事総利益	74.7	177.5
(率)	9.9%	11.4%
販 管 費	39.6	84.0
営 業 利 益	35.1	93.5
(率)	4.7%	6.0%
経 常 利 益	36.3	95.0
(率)	4.8%	6.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	26.3	66.5
(率)	3.5%	4.3%
1株当り当期純利益	49.34円	123.10円
受 注 残 高	668	626

2) 受注高および完成工事高

➤ メンテナンス、エンジニアリングともに5月15日公表値から変更なし



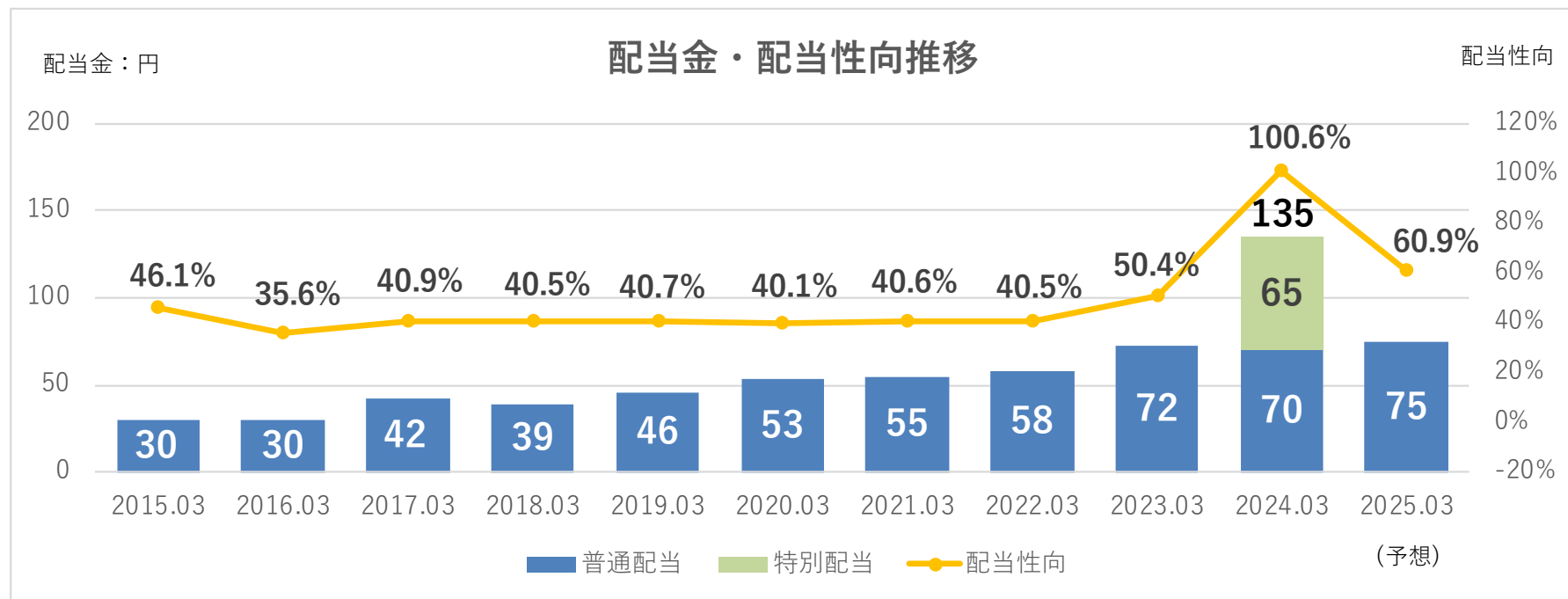
■ メンテナンス ■ エンジニアリング

注) 2025.03の数値は予想値となっております。

3. 配当

1) 2025年3月期配当予想

- 年間配当 75円 (連結配当性向 60.9%)
- 中間配当 35円、期末配当 40円の予想 (5月15日公表値から変更なし)



注) 上図のグラフの2020.03の数値は負ののれん発生益(55億円)を除いて算出している。

4. 長期ビジョン及び中期経営計画

1) 長期ビジョンの骨子

➤ ありたい姿の実現に向け、以下の三項目を基本方針として掲げた

基本方針

経営基盤の進化

レイズネクストグループとして
持続的に社会へ貢献していくため
グループ全体の経営基盤の進化を図る

既存事業構造の最適化

石油製品の需要減少等による
石油精製・石油化学設備の縮小に鑑み
既存事業構造について最適化を図る

新規事業・分野・ サービスへの挑戦

カーボンニュートラル社会の
実現に貢献すべく、
新たな事業・分野・サービスへ挑戦する

- 経営基盤については、2024年問題の解決が喫緊であるほか、DXを含めた業務改革等、収益力を高めるための施策が必須
- 既存事業は当社の基盤であるため、多くの減少要因を乗り越え維持するための努力が必須
- 次世代を見据えた当社の成長のため、新規への取組みが必須

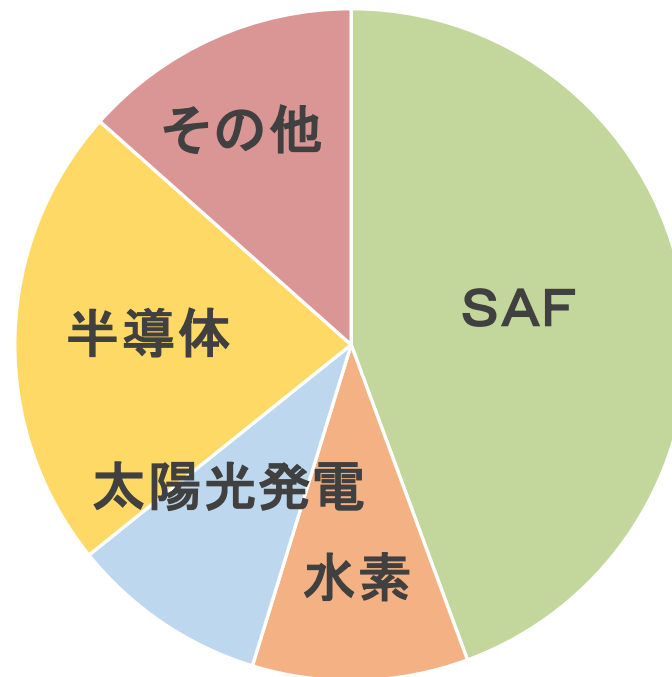
2) カーボンニュートラル分野への挑戦

- 統合前のカーボンニュートラルの実績は、太陽光発電がほぼ100%
- 統合後、両社の得意技術を融合し、S A Fを主体とし、多様な分野に挑戦中。

統合前



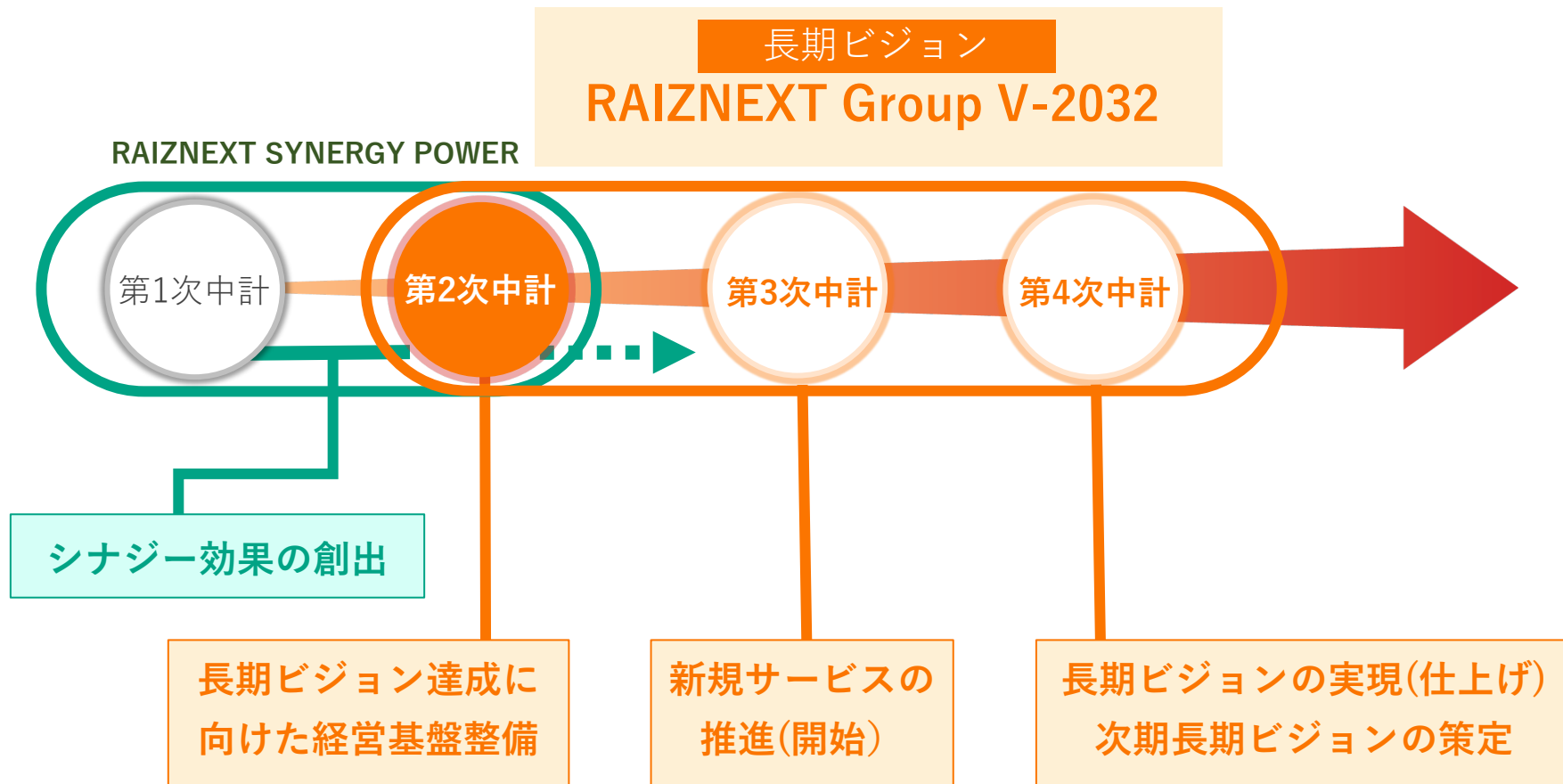
統合後



多様なカーボンニュートラル案件に対し、当社の優位な分野を見極め、受注拡大を目指す

3) 長期ビジョンと中期経営計画との関係

- 長期ビジョンは、第2次～第4次の3つの中計期間を経て実現を目指す



4) 経営基盤の強化と各事業戦略



メンテナンス事業の強化

- 全社生産計画システムの効果的運用
- 協力会社ネットワークの強化と動員力維持



エンジニアリング事業の強化

- 事業遂行体制と技術力のさらなる強化
- 再生可能エネルギー等の新規分野における受注拡大



タンク事業の強化

- 全社的運営体制のさらなる強化と協力会社の体制強化
- 水素貯蔵タンクの設計・施工技術の調査・検討

- 受注・収益の拡大
- 技術力の強化



経営基盤の強化

- グループ全体のガバナンス体制強化
- 時間外労働上限規制・新しい働き方への対応
- 人材の確保と育成
- CSR活動およびSDGsを含めたESG経営
- DXの推進
- シナジー効果の創出

5) 工事種類別完成工事高推移

- 日常保全是減少だが、その他は堅調に増加
- タンクは4年成長率40%以上と大幅な伸び

単位：億円	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 予想	4年成長率 2020→2024	今後の見通し	5か年推移
定修	517	363	396	479	521	0.8%	○人員の制約により現状の定修エリアを維持しつつ、EPCを受注した設備の定修の増加を期待	
日常保全	268	260	244	244	235	-12.3%	○小規模の事務所統廃合を行っており微減	
EPC	410	407	488	387	487	18.8%	○OCN案件の建設フェーズに入り、売上増加と予想 ○装置老朽化に伴う更新・改造工事にかかわる オフサイト工事需要が増加すると想定	
タンク	173	182	195	215	257	48.6%	○タンク人員の確保により対応案件が増加 ○タンク人員の制限により伸び率は低下するものの 今後も成長が期待	
単体合計	1,369	1,212	1,323	1,325	1,500	9.6%		
連結合計	1,459	1,298	1,400	1,403	1,560	6.9%		

6) タンク事業の拡大

➤ 組織体制・人員強化により、タンク分野での完成工事高が大幅に増加

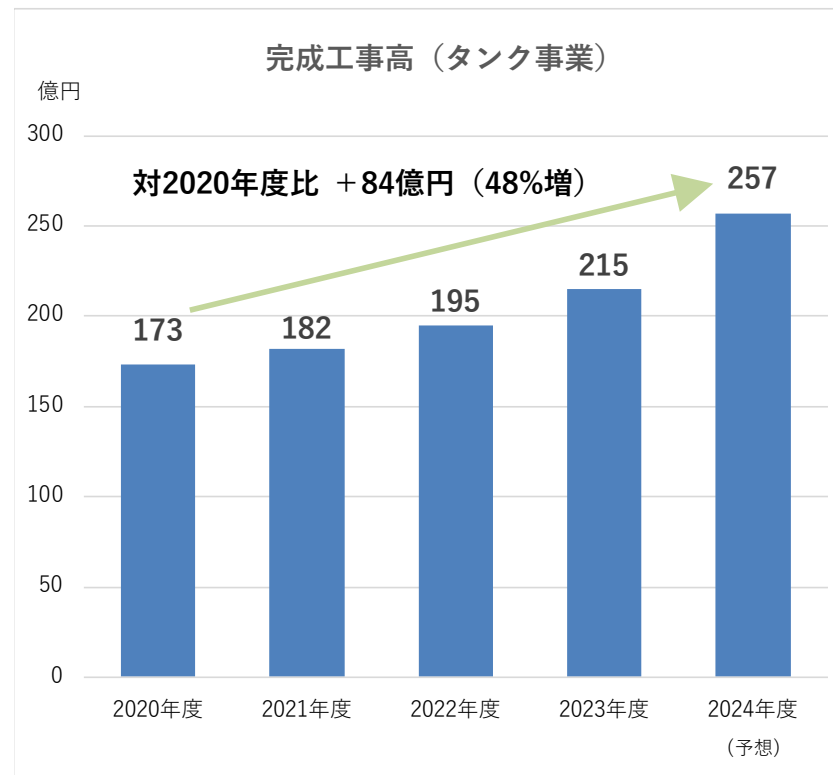
< 具体的施策 >

- ・ タンクの設計・施工体制を強化
- ・ 教育によるタンク施工人員の拡充
- ・ 営業強化によるタンク新規顧客の獲得



タンク工事の受注拡大

完成工事高
対2020年度比 48%の増加



今後、カーボンニュートラル社会における水素・アンモニアの社会実装に向け、低温タンク建設の需要が増加の見込み

➡ 低温タンクの施工分野への進出を目指し、検討開始

5. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗について

1) 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応の進捗について

長期的に R O E 1 0 % 以上を目指すために4つの施策を実施

収益性の向上

資本効率の向上

株主還元の充実

I R 活動の強化

2月9日の開示後の主な進捗

< 資本効率の向上 >

- ・ 賃貸不動産・遊休不動産の売却完了
- ・ 政策保有株式の売却の進展

< 株主還元の充実 >

- ・ 配当方針を配当性向60%以上に変更
- ・ 5周年記念の特別配当実施

< I R 活動の強化 >

- ・ 日経IR・個人投資家フェア2024に出展
個人投資家向けセミナーに参加
(計3回)
- ・ 発行体格付『A-』を取得

この資料には、2024年11月18日現在の将来に関する見通し及び計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動などに伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。

【お問い合わせ先】

レイズネクスト株式会社

〒231-0062 神奈川県横浜市中区桜木町1-1-8

経営企画部 業績・IRグループ

TEL：045-415-1500

E-MAIL：ir-info@raiznext.co.jp

URL：https://www.raiznext.co.jp



レイズネクスト株式会社